

2010 年・初夏号

CONTENTS

特別寄稿 2
株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
上席理事 設計本部長 大川邦彦

特集 4-10
平成 22 年度通常総会開催される
・平成 22 年度事業計画
・新役員
・定例記者会見
・懇親会

NEWS 2-3
・特別講習会開催

総務委員会だより 11

トピックス 12
・新年度委員会紹介

データ 13



上) 通常総会の様子
左中) 特別講習会の様子
右中) 協会表彰の受賞者



特別寄稿

「一口開口部考」

株式会社 ジェイアール東日本建築設計事務所
上席理事 設計本部長
大川 邦彦



設計をするにあたり、どこにどんな開口部を設けるかでもいつも悩んでしまう。それはエレベーション上でのプロポーション・室内からのビュー・動線確保のルート・防災面でのファンクション等多方面からのバランスを考慮しなければならないからである。

日本の風土で培われた開口部そしてその装置には、優れたものが数多くある。天照大神の天の岩戸、伊勢神宮の正面の扉、桂離宮の築地入り口や障子、江戸城の絵襖、和風建築の真髄である雪見障子、半部、そして雨戸など。開口部の持っている意味を三つに分けて考えてみる。

「空間」

宇宙空間からの恵みである日・月の光、火の熱、水の流れや雨を制御したり、透過・遮断・開放・閉鎖で表現される内部空間と外部空間など異次元な空間の「つながり」を制御する開口部。光を取り入れる窓・防災避難の扉、水量を調整する水門などや雪見障子から見る庭（内から外）、書院に付随した庭（内＝外）、大庭園の中にある建築（外から内）などの開口部があげられる。

「意識」

公私を分ける要となる人間の「心理」の結界を明確にする開口部。ヨーロッパの都市を外敵から守ってきた城壁に

ある数箇所の門、中国福建省にある客家（ハッカ）集落の唯一つの出入り口、箱根の関所の門、そして住居内でのプライバシーを確保するために居間から切り離された寝室の扉等があげられる。

「建築」

見る・聴く・触る等の感覚や美しいプロポーションで人間の「感性」にうったえる開口部。パルテノン神殿のファサード割付（黄金比）、教会のクリアストリー・ローズウインドウ・スタンドグラス、ベルサイユ宮殿鏡の間テラス窓、コルビジェのサボア邸、ストックホルム市庁舎、村野藤吾の森五ビル等々の心を動かされる美しさを持っているファサードの開口部があげられる。

最近では、開口部の装置としてアリババと盗賊の呪文のごとく、瞬時にして開閉できるものや、フランスにあるアラブ世界研究所の1万6千個のシャッター窓のよう日照に呼応してカメラの絞りと同じ原理で開閉により光量制御されているものまでである。

開口部がいかに人間生活や建築にとって、重要な位置づけにあるかを再認識するときではないでしょうか。

NEWS

運営委員会、基準委員会の委員長交代

今年度より運営委員会は、安武信雄委員長（三和シャッター工業（株））に代わり、上枝一郎委員長（同）が就任した。また、基準委員会は、岡田敏夫委員長（東

洋シャッター（株））に代わり、福田伸夫委員長（文化シャッター（株））が就任した。

社長人事



東洋シャッター（株）代表取締役社長に岡田敏夫氏就任。4月1日付け。91年入社。02年常務。大阪府出身。



三和シャッター工業（株）代表取締役社長に木下和彦氏就任。4月1日付け。72年入社。03年執行役員。09年執行役員副社長。静岡県出身。



トステム鈴木シャッター（株）代表取締役社長に牛尾清明氏就任。6月9日付け。76年トーヨーサッシ（現トステム）入社。09年執行役員。
〈発表順に掲載〉

今年度初の『特別講習会』を開催！

協会では点検法制化に向けて体制の整備・強化を進めているが、今年度初となる、防火シャッター・ドア保守点検専門技術者（協会認定）を対象とした『特別講習会』を、4月16日、東京・千代田区で開催した。

講習会は、防火設備としての感知器の構造や機能について、協会認定の専門技術者が知識の向上を図ることを目的に、防火シャッター、防火ドアが、感知器や連動制御器と連続して正しくして作動するかといった一連の作動点検を想定した内容で行われた。

講習の内容は、「関係法令」「電気に関する基礎知識」「感知器・連動機構及び関連する設備」「感知器・連動機構の構造・機能」「感知器・連動機構の点検調査内容」「感知器・連動機構の点検調査の実務」など6項目か

らなり、各専門分野の協会委員により講義が行われた。4月22日には、大阪・中央区にて開催された。



東京会場での講義

訃報

金剛産業株式会社社長 佐土原 健一氏 逝去される

協会元理事で、金剛産業株式会社社長の佐土原 健一氏が、去る4月8日に逝去された。享年82歳。告別式は4月16日、東京新宿・千日谷会堂で行われ、協会からは岩部会長ほか協会関係者が参列し、岩部会長は弔辞を述べた。喪主は長男で



同社社長であり、協会現理事の佐土原剛氏と故人の奥様である幸子氏。故人は同社の創業者であり、わが国に初めてオーバーヘッドドアを導入し、今日まで普及に力を注がれた。協会においては、平成元年から平成14年まで理事を務め、その後も監事として尽力された。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年度 通常総会開催される

さる5月26日(水)午後、東京・千代田区のグランドアーク半蔵門において、(社)日本シャッター・ドア協会の平成22年度通常総会及び定例理事会が開催された。

その後、日刊紙、専門紙誌の記者を招いて記者会見が行われ、夕刻からは、恒例となっている懇親会が開催された。



第46回 通常総会

14時40分より、グランドアーク半蔵門3F「ガーネット」にて、会長、副会長、理事、監事全員出席の下、『第347回定例理事会』が開催された。その後、退任役員の挨拶、新任役員の紹介を経て、『第46回通常総会』が開催された。

通常総会の議事としては、

第1号議案 平成21年度事業報告承認の件

第2号議案 平成21年度収支決算承認の件

第3号議案 平成22年度事業計画(案)承認の件

第4号議案 平成22年度収支予算(案)承認の件

以上の議案が諮られ、それぞれ原案通り承認された。

事業報告については、環境問題への対応・製品安全への取り組みといった調査研究事業、保守点検に関する認定登録事業、公益性推進事業などの定常的活動の報告がなされた。

その後、優秀施工者国土交通大臣顕彰受章者表彰、委員功労表彰(各3名)が行われた。

(平成22年度事業計画、組織図などについては7ページ以降に掲載)

報道関係者を招き定例記者会見

16時20分より、5F「シンフォニー」において、日刊紙、専門紙誌の記者が出席するなか、定例記者会見を行った。

会見には岩部会長、東田副会長、中屋副会長、沖村専務理事、後藤理事が出席し、岩部会長のあいさつの後、沖村専務理事が22年度の事業計画についての説明を行った。



記者会見を行う岩部会長(中央)

平成 22 年度通常総会懇親会が開催される

18 時より、3F「華の間」において来賓、会員、報道関係者あわせて約 230 名が参加して、恒例の通常総会懇親会が催された。

栗原事務局長の司会により開会が宣言され、岩部会長より通常総会で新年度事業計画などが承認された旨の報告や点検法制化の検討経過などが説明された。また、明るい話題として会長が紹介する形で、高速シートシャッターの ECO マーク取得の見通しが立ったことから、高速シートシャッター専門委員会・小松委員長が経緯を報告し

た(6 ページ参照)。引き続き、来賓として佐々木基・国土交通省大臣官房審議官からのごあいさつ、そして、奈良松範・諏訪東京理科大学教授より環境問題に触れてのごあいさつ(ホームページに内容掲載)を頂いた。

続いて、東田副会長発声による乾杯を合図に歓談に移り、会員や来賓の方々が各所で談笑する姿が見られた。約 1 時間半後、和やかな雰囲気の中、中屋副会長による中締めが行われ、懇親会はお開きとなった。



岩部金吾会長



佐々木基・審議官



奈良松範・諏訪東京理科大学教授



東田誠之副会長



中屋俊明副会長



乾杯の発声を行う東田副会長

平成 22 年度協会表彰

平成 22 年度は、優秀施工者国土交通大臣顕彰者として 3 名、協会委員会委員功労表彰として 3 名を、協会として表彰しました。優秀施工者国土交通大臣顕彰者は、5 月 27 日、東京・メルパルクホールにおける式典で顕彰され、建設マスターとして公表されました。

■優秀施工者国土交通大臣顕彰者

神鷹 英男 文化シャッター専属工事
奥田 満 トステム鈴木シャッター専属工事
奈良 純一 三和シャッター工業専属工事

■協会委員会委員功労表彰者

井手 新 文化シャッター(株)
高速シートシャッター委員会
福西 耕二 トステム鈴木シャッター(株)
シャッター技術委員会
築山 清一 東洋シャッター(株)
ドア技術委員会、OHD 技術委員会

(敬称略・順不同)

《優秀施工者国土交通大臣顕彰者》



神鷹 英男 氏



奥田 満 氏



奈良 純一 氏

《協会委員会委員功労表彰者》



井手 新 氏



福西 耕二 氏



築山 清一 氏

高速シートシャッターのエコマーク取得に関する報告

高速シートシャッター委員会委員長
小松 昭夫
(小松電機産業株式会社 代表取締役)



2007 年から高速シートシャッターのエコマーク取得に取り組んでまいりました。紆余曲折はありましたが、ようやく 5 月 19 日でパブリックコメント募集も終わり、申請に向けて具体的な協議を進めておりますので、報告させていただきます。

2007 年 7 月、シートシャッターの技術標準および安全ガイドラインを各社のご協力を得て完成いたしました。その頃、先進国では京都議定書にある CO₂ の 5%削減をどのようにして達成すべきか盛んに議論されており、一般的な鋼製シャッターと比較して約 10 倍～20 倍もの高速で開閉できるシートシャッターを広く普及させることで屋内からのエネルギーの流出を低減し、空調等の省エネに寄与できると考え、エコマーク認定取得を目指すこととなりました。

エコマーク事務局下平(しもだいら)様からの熱心なご指導も頂いて、2008 年 10 月に申請書を日本環境協

会に提出致しました。審議頂いた結果、2009 年 5 月、本基準案が「建築製品」認定基準の中に高速シートシャッターという新たな分類をつくることで追加頂けるとの通知を頂きました。同年 7 月には、新規認定基準案と解説内容について詳細な打合せをエコマーク事務局と行い、11 月のエコマーク基準制定委員会での承認を待っておりましたが、委員会で指摘事項があり承認持ち越しとなりました。12 月に指摘事項に対する回答を委員会でもまとめ、ご説明させて頂いた結果、今年の 3 月 10 日にエコマーク基準制定委員会より承認の通知を頂きました。その後、4 月 20 日より 5 月 19 日まで日本環境協会ホームページにパブリックコメント募集として公表された結果、特に外部からの意見は無かったと報告を受けております。

今後は、エコマーク事務局と詳細のつめを行います。シートシャッターの最大の効果は高速で稼働するシートによって空気を遮断して CO₂ 削減に大きく寄与することです。懸案事項としては、リサイクル時におけるシートシャッター構成部材に含まれる特定有害物質の溶出について、各社の資料を取りまとめて当協会から公的検査機関に検査依頼をすることが残っております。

※本稿は、5 月 26 日、協会通常総会懇親会において、小松委員長より報告された内容を一部割愛させて頂き掲載したものです)

平成22年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火等の防災機能を担う重要な役割を担っている。当協会は昭和39年に社団法人日本シャッター工業会として設立以来、シャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックはすでに膨大なものとなっている。当協会が昭和45年より調査しているシャッター出荷量の統計によると、重量シャッターは累計で5千5百万平米以上が供給されており、その5%程度が滅失しているとしても、台数換算で3百数十万台が設置されていると推定される。また、重量ドアについても毎年その6倍程度の台数が供給されている。

このように膨大な量のシャッター及びドアについては、的確な点検と修理の普及により期待された機能が確保されることが、安全で安心な社会を形成する上で極めて重要である。

当協会では、平成18年度よりシャッター及びドアの点検の法制化に関し、推進本部を設けて活動してきたが、国土交通省においても平成20年度より社会資本整備審議会建築部会のもとで、防火シャッター、防火ドア等の防火設備について専門に調査を行う資格者制度の検討が行われている。

協会としては、この検討にあたって必要な資料の提供等を行うとともに、この検討の結果を踏まえた新たな制度が円滑に実施されるよう、協会をあげて協力していく考えである。

また、近年、地球温暖化対策は極めて重要な課題となっている。二酸化炭素の排出の抑制やその原因となる化石燃料の使用の削減が強く求められている中において、当協会においても環境に配慮した対策の取り組みを強化する。今年度は、これまでより一層環境に配慮した窓シャッターの検討、高速シートシャッターの環境負荷低減の基準作りなど、環境に配慮した対策を進めていくこととする。

平成20年12月に新たな公益法人制度に関する法律が施行され、当協会も特例民法法人となっており、5年の間

に公益社団法人又は一般社団法人のいずれかを選択することとなる。当協会は、公益活動をさらに充実して公益社団法人への円滑な移行を行うこととし、このための取り組みを進める。

世界同時不況による景気の急速な悪化には底入れの兆しはみられるが、我が国経済は企業収益の低下に伴う設備投資の減少、雇用情勢の悪化等依然として先行き不透明な状況が続いている。

当協会を取り巻く環境も、建設投資の減少や新設住宅着工の大幅減など一段と厳しい状態になっており、多くの課題を抱えているが、会員相互の協力によって設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高めながら社会に一層貢献していきたいと考える。

第一章 定常的事業

1 調査研究普及事業

シャッター、ドア等に関する材料、工法、規格、品質、使用方法及び維持管理等に関する調査研究を行うとともに、その成果について資料の公表、配布を行う。

(1) 環境問題への対応

- ・環境に対応したシャッター・ドアについて調査研究を行う。
窓シャッターについてこれまでより一層環境に配慮した製品の検討を行うとともに、断熱性の高いドア、断熱性に配慮したシャッターについて検討を行う。
- ・高速シートシャッターの環境への対応を進める。
エコマーク申請資料の標準化、CO₂削減計算方法の標準化を行う。
- ・ドアの環境耐性（塩害、塗装仕様）に関する検討を行う。

(2) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の分析とそれを踏まえた対策の提言を行う。
- ・安全対策委員会を開催する。
- ・他社製品のメンテナンス・改造に関する品質維持・安全性の確保のあり方について検討を行う。
- ・重大事故につながる対象部品・部位の点検方法につい

て検討を行う。

(3) 技術基準類の改定

- ・グリルシャッターの技術基準を検討する。
- ・耐火クロスの耐久性に関する技術基準を検討する。
- ・重量ドアの技術基準を検討する。
- ・オーバーヘッドドアの技術基準の改訂を行う。
- ・窓シャッター技術基準の改訂を行う。
- ・防火設備の標準収まり図を策定する。

(4) 施工要領、点検基準類の改定

- ・軽量シャッターの施工基準、点検基準を作成する。
- ・重量シャッターの点検基準の改訂を行う。
- ・グリルシャッター（高頻度タイプ）の点検基準を策定する。
- ・重量シャッター（袖扉連動防火シャッター、可動中柱式防火シャッター関係）の点検基準の改訂を行う。

(5) 防犯製品の普及・促進

- ・展示会への協賛及びパネル展示を行う。

2 評定登録事業

シャッター及びドア並びにそれらの保守点検を行う者について認定、登録等を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法（CAS）の使用承認を行う。
- ・連動機構、装置等の自主評定を（社）日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同で行う。
- ・防犯性能の高い建物部品の自主認定管理を警察庁等で組織する官民合同会議に参画して行う。

(2) シャッター及びドアの保守点検を行う技術者の認定及び登録

- ・シャッター及びドアの保守点検を行う技術者の認定及び登録を行う。

3 講習・研修事業

- ・防火シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催する。

4 公益性推進事業

定款に定める公益目的に即した活動を推進するため、シャッター及びドアに携わる者の資質向上、会員の拡充と会員相互の意思疎通、会員企業のコンプライアンスの確保、関連する諸団体や行政機関と提携した協会活動を行う。本

年度は以下の事業等を行う。

(1) 元下請契約適正化

- ・元請との取引状況に関する実態調査を行う。
- ・スチールドア契約適正化全国研修会を開催する（共催）。

(2) 会員の資質向上

- ・会員の社会的責任のあり方に関する検討及び啓発を行う。
- ・労働基準法等労働契約に関する制度の改正等に関する勉強会を行う。
- ・施工資格認定制度の検討を行う。
- ・自主検査実施状況調査の様式の見直し及び施工要領書のデータ化を行う。

(3) 情報の共有化

- ・シャッター・ドアの生産数量及び労働災害発生状況に関する調査を行う。
- ・耐火クロススクリーンの自主管理の説明資料を作成するとともに、自主管理を開始する。
- ・スチールドアの市場に関するデータを作成する。
- ・関連団体の公益的行事への協賛等を行う。
- ・支部活動による自主研修等を通じて会員の業務水準の向上を図る。
- ・会報の発行、ホームページによる情報提供を行う。

第二章 特別事業

1 シャッター・ドア等点検法制化事業

社会資本整備審議会建築部会における検討に関し必要な資料の提供を行うとともに、この検討を踏まえた新たな防火設備の定期調査制度が円滑に実施されるよう、昨年度に引き続き点検法制化推進本部を設置し、協会における対応方策等について検討を行う。

また、国における新たな制度の実施にあわせ必要となるシャッター・ドアを点検する事業について検討し、事業化を図る。

2 公益社団法人移行事業

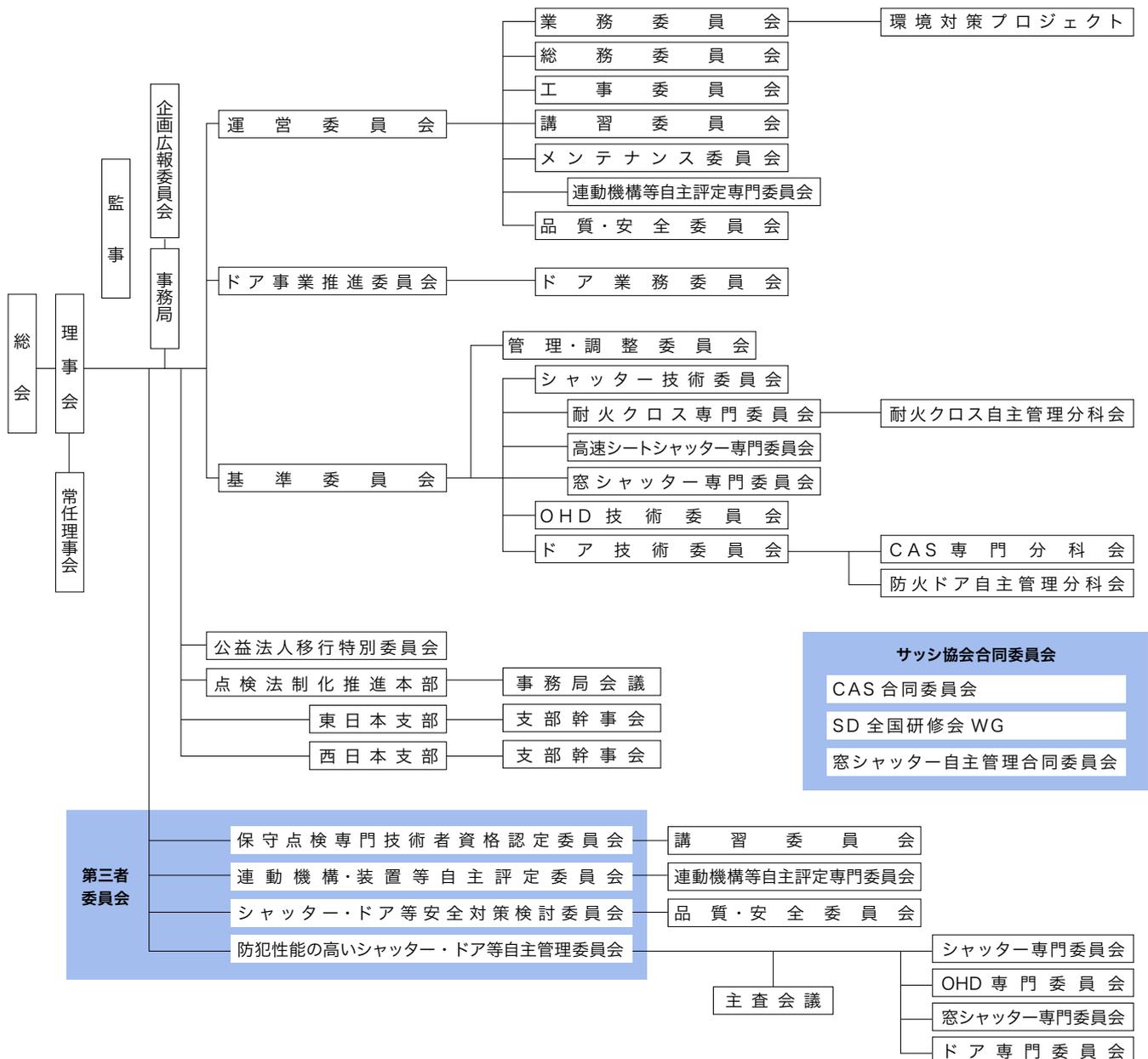
新公益法人制度の施行・適用を契機として当協会の公益活動を充実するため、昨年度に引き続き公益社団法人移行特別委員会を設置し、今後重点を置くべき公益活動のあり方、整備充実が必要な協会組織及び定款その他の規程の改正等基本的な運営方針について検討する。

第一章及び第二章の事業を遂行するため、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関連業務団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

なお、公益社団法人への移行にあたり、定款その他の規程の改正等が必要と認められるに至った場合には、必要な手続きを進めるものとする。

平成 22 年度 運営組織図



平成 22 年度 役員

会 長	岩部 金吾	文化シャッター(株) 代表取締役会長
副 会 長	東田 誠之	田中サッシュ工業(株) 代表取締役社長
副 会 長	中屋 俊明	三和シャッター工業(株) 取締役
専務理事	沖村 恒雄	(社)日本シャッター・ドア協会 専務理事
理 事	後藤 忠義	(株)日本シャッター製作所 代表取締役社長
理 事(新任)	岡田 敏夫	東洋シャッター(株) 代表取締役社長
理 事(新任)	安中 昇	(株)安中製作所 代表取締役社長
理 事(新任)	牛尾 清明	トステム鈴木シャッター(株) 代表取締役社長 (H22.6)
理 事	岡 陽一	東鋼シャッター(株) 代表取締役
理 事	小俣 雅宏	小俣シャッター工業(株) 代表取締役社長
理 事	梶山 博俊	大和シャッター(株) 代表取締役社長
理 事	牛頭 憲治	協立サッシ(株) 代表取締役社長
理 事	佐々木知也	東工シャッター(株) 代表取締役社長
理 事	佐土原 剛	金剛産業(株) 代表取締役社長
理 事	多田 旭	(社)日本火災報知機工業会 専務理事
理 事(新任)	手島 正人	(株)手島製作所 専務取締役
理 事	吉田 倬郎	工学院大学 常任理事・工学部教授
監 事(新任)	居谷 献弥	(社)リビングアメニティ協会 専務理事
監 事	鐵矢 知志	鐵矢工業(株) 会長



岩部会長



東田副会長



中屋副会長



沖村専務理事



後藤理事



岡田理事



安中理事



牛尾理事



岡理事



小俣理事



梶山理事



牛頭理事



佐々木理事



佐土原理事



多田理事



手島理事



吉田理事



居谷監事



鐵矢監事

■はじめに

総務委員会では、経営者並びに社員の皆様が会社内でもわかる可能性が高い法律について紹介していきます。法律とはとかくややこしいものではありませんが、このQ&Aがみなさんのご理解の一助となれば幸いです。

第5回はインサイダー取引について紹介します。

■「インサイダー取引」ってなに？

インサイダー取引とは

会社関係者 元会社関係者 情報受領者

が

重要事実の発生後、公表前

に

重要事実を知りながら 特定有価証券等 を売買等すること

(金融商品取引法 166 条の概要)

会社関係者に当てはまるのは誰？

- ① 上場会社・親会社・子会社の役職員
職務に関して重要事実を知った場合
例) 役員・社員・契約社員
- ② 帳簿閲覧権者
閲覧権の行使に関して重要事実を知った場合
例) 総議決権の3%以上を有する大株主
- ③ 法令に基づく権限を有する者
権限の行使に関して重要事実を知った場合
例) 監督官庁の公務員
- ④ 契約締結者・契約交渉中の者
契約の締結・交渉・履行に関して重要事実を知った場合
- ⑤ ②、④と同一法人の他の役職員
職務に関して重要事実を知った場合



元会社関係者とは？

会社関係者でなくなってから 1 年以内の者



情報受領者とは？

- ・会社関係者、元会社関係者から重要事実の伝達を受けた者
- ・職務上の情報受領者（報道記者、証券アナリスト等）と同一法人の他の役職員が、その職務に関し重要事実を知った場合

重要事実とは？

次に掲げる投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす情報

	上場会社	子会社
決定事実	・募集株式、新株予約権引受の募集 ・資本金額の減少 ・株式交換、株式移転 ・新製品又は新技術の企業化 ・合併 ・業務提携 ・自己株式取得 等	・株式交換、株式移転 ・合併 ・業務提携 等
発生事実	・業務遂行の過程で生じた損害 ・債務免除 等	・業務遂行の過程で生じた損害 ・債務免除 等
決算情報	・上場会社の業績 ・企業集団の業績	上場子会社の業績
バスケット条項	上記の3つ以外、投資者の投資判断に著しい影響を与える情報	上記の3つ以外、投資者の投資判断に著しい影響を与える情報

公表とは？

- ・重要事実が上場取引所の所定の HP に掲載され公開されること
- ・重要事実が2つ以上の報道機関に公開され12時間経過すること
- ・重要事実の記載された有価証券報告書等が公開されること

実はうちの会社
今期決算の結果では
業績が著しく
悪化したのよ。

へえ～…

公表される前に
あの会社の株を
1,000株
売ってしまおう。



特定有価証券等とは？

- ・株式、新株予約権証券、優先出資証券 等
- ※適用除外
 - ・ストックオプションの行使（ただし、行使後の売却は規制対象）
 - ・従業員持株会、役員持株会、取引先持株会による買付け（ただし、引出し後の売却は規制対象）
 - ・るいとう（株式累積投資）

■罰則

- ・5年以下の懲役、500万円以下の罰金
- ・法人：5億円以下の罰金
- ・インサイダー取引で得た財産は全て没収・追徴（没収の対象は売却代金全額）
- ・課徴金納付命令が出される可能性もありますので株式の売買には十分注意して下さい。

ばっ、罰金!?

ガーン!



トピックス

委員会紹介

新年度より、常設委員会の一部が再編成され、名称の変更、役割の変更等も行われました。

主なところでは、企画委員会を発展的に解消し、その役割であった「コンプライアンス推進」と「公益社団法人へ移行」については総務委員会（旧・労務委員会）へ移管。同じく、「支部活動、会員交流の支援業務」については企画広報委員会（旧・広報委員会）へ移管しました。

新年度の委員会および主な活動テーマは以下のとおりです。

委員会名	主な活動テーマ
業務委員会	<ul style="list-style-type: none">機能付加製品の普及に関すること 防犯性能の高いシャッター等 障害物感知装置、落下防止装置等シャッター・ドア等の定期点検の普及に関することシャッターの市場及び用途の調査に関すること元下請関係の契約適正化に関すること環境負荷低減に関すること →環境対策プロジェクト
総務委員会	<ul style="list-style-type: none">シャッター・ドア業界の雇用及び労務等に関する調査・研究コンプライアンスに関する全般推進新法人移行に関すること
工事委員会	<ul style="list-style-type: none">施工技術の開発及び施工品質向上に関すること現場作業における安全対策に関すること建設業法等のコンプライアンス
講習委員会	<ul style="list-style-type: none">シャッター・ドア等保守点検専門技術者育成のための講習会開催保守点検専門技術者資格認定委員会の事務局
メンテナンス委員会	<ul style="list-style-type: none">シャッター・ドア等の保守点検業務に関すること
連動機構等自主評定専門委員会	<ul style="list-style-type: none">連動機構装置等の自主評定に関すること
品質・安全委員会	<ul style="list-style-type: none">シャッター・ドア等の不具合情報の収集及び分析安全対策、品質向上に関する提言と推進安全対策検討委員会の事務局
管理・調整委員会	<ul style="list-style-type: none">技術標準等の体系の管理と整備推進基準委員会の事務局業務
シャッター技術委員会	<ul style="list-style-type: none">シャッター等の品質及び安全性向上のための技術的調査、研究及び技術標準の整備シャッター等に関する法令等について必要な提言防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会関連業務
耐火クロススクリーン専門委員会	<ul style="list-style-type: none">耐火クロス防火防煙スクリーンの品質及び安全性の向上のための技術的調査・研究及び技術標準整備
オーバーヘッドドア技術委員会	<ul style="list-style-type: none">オーバーヘッドドアの品質及び安全性の向上のための技術的調査・研究及び技術標準整備防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会関連業務
高速シートシャッター専門委員会	<ul style="list-style-type: none">高速シートシャッターの品質及び安全性の向上のための技術的調査・研究及び技術標準整備
窓シャッター専門委員会	<ul style="list-style-type: none">窓シャッターの品質及び安全性の向上のための技術的調査・研究及び技術標準整備日本サッシ協会との窓シャッターに関する合同会議運営防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会関連業務
ドア技術委員会	<ul style="list-style-type: none">ドア等の品質及び安全性の向上のための技術的調査・研究及び技術標準の整備ドア等に関する法令等について必要な提言防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会関連業務
ドア業務委員会	<ul style="list-style-type: none">ドアの市場及び用途の調査に関することドア事業の業務標準化、効率化のための調査研究機能付加製品の普及に関すること 防犯性能の高いドア等
企画広報委員会	<ul style="list-style-type: none">会報の出版に関すること協会ウェブの企画及び運営に関すること支部活動、会員交流会等の支援に関すること協会行事に関すること会員、関係官公署、マスコミ、社会一般への公表に関すること

協会『評定登録事業』の実績

遮炎・遮煙性能防火戸（CAS）の承認

項目	H22.1～H22.3	累計
CAS-0257	—	27社
CAS-0258	—	19社

煙・熱感知器連動機構・装置の自主認定

項目	内容	H22.1～H22.3	累計
自動閉鎖装置	新規	1件	63件
	型式変更	—	
	軽補正	2件	
	更新	2件	
危害防止用連動中継器	型式変更	—	13件
	軽補正	2件	
	更新	—	
連動制御盤	更新	1件	3件
計		8件	79件

防犯性能の高い建物部品の自主管理認定

製品名	内容	H22.1～H22.3	累計
ドアB種	型式承認	4件	629件
重量シャッター	型式承認	—	20件
軽量シャッター	型式承認	—	59件
シャッター用スイッチボックス	型式承認	—	44件
オーバーヘッドドア	型式承認	—	9件
窓シャッター	型式承認	—	80件
計		4件	841件

防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の認定

内容	H22.1～H22.3	累計
新規	—	6,610名
更新	191名	
計	191名	6,610名

(2010年3月現在)

DATA

シャッター ■過去1年間推移

(㎡、前年比・電動化率%)

	H21.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22.1月	2月	3月
重量シャッター	70,456	58,206	78,043	88,944	72,942	80,396	82,234	65,877	62,058	54,024	57,323	69,065
前年比	-45.9	-53.6	-44.8	-37.9	-34.8	-37.5	-30.6	-31.4	-43.5	-41.4	-32.6	-16.8
軽量シャッター	174,513	156,490	173,785	170,937	144,964	165,179	203,163	181,528	171,617	120,129	139,025	171,587
前年比	-16.2	-22.0	-13.5	-19.6	-16.1	-12.9	1.0	3.9	-2.4	-9.2	-2.6	4.9
電動化率	22.8	24.6	25.6	25.7	25.1	25.0	22.2	24.2	25.4	25.4	24.5	24.1
グリルシャッター	3,986	3,696	4,247	5,412	4,328	4,873	4,881	4,449	5,145	4,098	4,829	4,775
前年比	-30.5	-28.5	-7.0	0.6	-2.6	-3.3	-17.0	-20.0	-10.1	-3.3	6.0	-12.5
オーバーヘッドドア	15,159	13,024	14,675	13,738	14,826	15,340	18,694	16,002	14,401	12,028	12,047	15,002
前年比	0.9	-8.8	-17.8	-23.8	-16.5	-33.3	-11.7	-15.7	-25.2	-28.6	-37.8	-8.4
合計	264,114	231,416	270,750	279,031	237,060	265,788	308,972	267,856	253,221	190,279	213,224	260,429
前年比	-26.5	-33.0	-25.8	-26.5	-22.7	-23.3	-10.9	-9.3	-18.5	-22.5	-15.3	-3.0

ドア ■過去1年間推移

(枚、前年比%)

	H21.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22.1月	2月	3月
鋼製重量ドア	35,377	33,017	32,860	33,427	35,250	38,088	37,815	39,107	37,044	31,886	42,487	40,057
前年比	5.0	-3.4	-9.7	-16.9	-6.8	-19.2	-8.3	-12.5	-14.4	-24.2	-6.0	-16.4
鋼製軽量ドア	47,669	42,637	51,549	57,442	52,344	56,398	59,722	61,959	70,071	62,212	68,818	50,097
前年比	-20.2	-32.3	-28.0	-23.3	-21.6	-13.7	-23.1	-21.8	-25.5	-26.8	-18.4	-25.7

注) ・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。 ・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。
 ・鋼製軽量ドアは、日本鋼製軽量ドア協会の統計によります。

「新日鉄の高耐食性めっき鋼板」

金属の腐食に頭を抱えている方、工程省略や部材のコストダウンを模索している方、

ぜひ、ご相談ください。

SUPERDYMA[®]

スーパーダイマ

with 新日鉄, to win!

新日本製鐵
薄板事業部

スーパーダイマの詳しいご案内は
スーパーダイマホームページ URL/
<http://www.nsc.co.jp/usuita/superdyma>

お問い合わせは
E-mail
superdym@hq.nsc.co.jp

住友金属



住友金属工業株式会社

お問い合わせ先
〒104-6111 東京都中央区晴海1-18-11(トリトンスクエア)
薄板営業部 TEL:03-4416-6333 FAX:03-4416-6359
〒541-0041 大阪府中央区北浜4-5-3(住友ビル)
大阪薄板営業部 TEL:06-6220-5590 FAX:06-6220-5970

住友の環境対応型薄板製品シリーズ クロムフリー表面処理鋼板

電気亜鉛めっき鋼板

スミジंकNEOコートT1

■特長

1. 導電性と耐食性のバランスに優れた性能を有しています。
2. 耐型かじり性に優れており、金型寿命を向上させます。

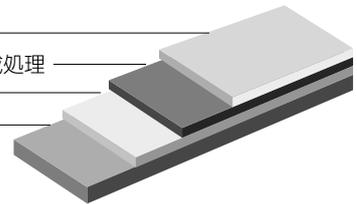
被膜構成

有機被膜

クロムフリー化成処理

電気亜鉛めっき

鋼板



溶融亜鉛めっき鋼板

タフジंकNEOコートK

■特長

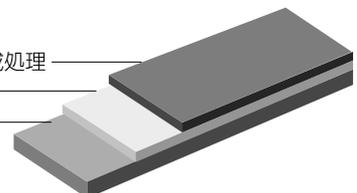
1. クロムを全く含まない特殊樹脂による新化成処理製品です。
2. 従来のクロメート処理表面処理鋼板と同等の性能を有しています。

被膜構成

クロムフリー化成処理

溶融亜鉛めっき

鋼板





ZAM



日新製鋼は、ZAMを通じて お客様の無限の可能性を拡げていきます。

詳しくはホームページをご覧ください。
www.nisshin-steel.co.jp

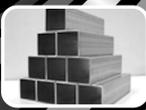
※ZAMとは、亜鉛-アルミニウム6%-マグネシウム3%のめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。



さまざまな形状が
ご提供可能です。



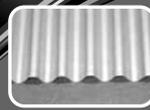
丸型鋼管



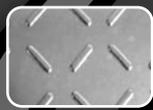
角型鋼管



溶接軽量形鋼



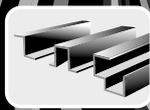
波板



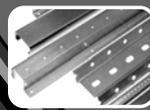
ノンスリップメタル



一般構造材軽量形鋼



特殊形鋼



フレノッチ形鋼



シャッター

用途：薄板建材全般

ZAMは、「性能」「コスト」「環境」の“トリプルメリット”。



ちょっと高くてもお買い得、ZAM。

性能

亜鉛めっき製品（当社製品名ペンタイトB）
に比べて10~20倍の耐食性、亜鉛-5%
アルミめっき製品（当社製品名ガルタイト）
と比べても5~8倍の耐食性を誇ります。

コスト

腐食環境の厳しい用途に耐え得ることから、
熱浸漬溶融亜鉛めっき（後めっき）やユニク
ロめっきの代替としてご使用いただくこと
ができ、お客様の工程省略が図れます。

環境

「少ないめっき付着量で高耐食性が得ら
れる」、「長寿命化が図れる」という観点
から、省資源対応の製品としての展開が
期待されています。

●建築基準法第37条第2号認定取得 ●日本住宅性能表示基準に従って表示すべき劣化対策等級（構造躯体等）の特別評価方法認定取得 ●建築施工技術・技術審査証明書取得 ●建設技術審査証明書取得（土木系材料）

日新製鋼株式会社

〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5166

お知らせ

当協会では、広報誌「JSDA 会報」に掲載する「広告」と会員企業の皆様を紹介する「会員交流プラザ」の出稿を随時募集しています。

■広告

- ・A4・1/2 サイズ（縦 13 cm×横 18 cm）、モノクロ 1 色：50,000 円（税込）
- ・A4・1/4 サイズ（縦横が 13 cmもしくは 9 cm）、モノクロ 1 色：25,000 円（税込）

■会員交流プラザ

- ・サイズ（縦 8.5 cm×横 8.5 cm）、モノクロ 1 色：5,000 円（税込）

お問い合わせは協会事務局（03-3288-1281）まで

埼玉スタジアム

2010・第19回FIFAワールドカップが、6月11日から7月11日にかけて南アフリカで開催されています。8年前、日韓共催で行われた時の熱気が蘇ってきます。2002年日韓ワールドカップサッカーの会場で準決勝の舞台にもなった日本最大のサッカー専用競技場「埼玉スタジアム」。

観客席数は63,700席（うち、車椅子席150席）。Jリーグの開催日などには、様々なイベントが行われ、多くの家族連れや熱狂的なサポーターで賑わいます。メインスタンドとバックスタンド上部には、鉄骨の屋根材の上に東京ドームと同じ材質の「ガラス繊維四フッ化エチレン樹脂コーティング膜（テフロン膜）」が張られています。この膜には光を通す性質（半透過）があるのですが、芝への日照や通風を確保するため、サイドスタンド側の屋根はありません。

また、環境に配慮した資源循環型の「エコスタジアム」をめざして、使用済み紙コップを回収しトイレトペーパーに再生したり、太陽光発電装置（発電量8.5kw）や雨水貯留槽（3,250t）を設置。屋根に降った雨水を貯めて、芝散水、トイレ洗浄水などに活用するほか、災害時には浄化した雨水を飲料水としても利用でき、防災活動拠点としての役割を果たします。

（撮影：2010年4月）



JSDA 会報 2010年・初夏号

発行日：2010年7月1日 通巻第31号

発行者：社団法人 日本シヤッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-3 フナトビル 4F

tel.03-3288-1281（代）／fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>